

現地視察会について

ストック効果の発現（観光客増）

道の駅「いちごの里よしみ」

＜埼玉県吉見町の説明＞

- ・ 圏央道整備等により、道の駅を訪れる観光客や、道の駅周辺の国指定史跡の入場者数が増加。
- ・ 神奈川県～群馬県の移動時の立寄りも増加。



ストック効果の発現（民間投資の誘発）

プロロジスパーク川島

- ・ 圏央道川島インター開通にあわせて進出した物流企業と意見交換。

＜プロロジス社の説明＞

- ・ アクセスの良さや周辺環境の点で、物流施設運営にとり良好な環境。将来的にも、広域管轄拠点としての立地ポテンシャル向上が予想される。



「賢く投資」

狭山日高 I C

- ・ ストレスのない道路料金所の構築に向けた取組の一環である、ETCレーンのバー開放運用実験を視察。



「賢く使う」

品川シーズンテラス

【施設の高付加価値化】

- ・ 立体都市計画制度を活用し、上部空間を民間事業者に貸し付け、P P P手法によりオフィスビルを整備。

【未利用資源の活用】

- ・ 下水再生水をトイレ洗浄水等に活用。
- ・ 下水熱を空調熱源に活用。



生産性革命

コマツIoTセンター

(コマツレンタル(株)美浜機械センター内)

【社会資本整備を支える現場の生産性向上】

- ・ ICT建機やUAV(無人ヘリ)等を用いる、コマツ社のスマートコンストラクションを取材。
- ・ 実演見学ののち、委員が最新建機に試乗し、生産性向上に向けた企業の取組を体験。

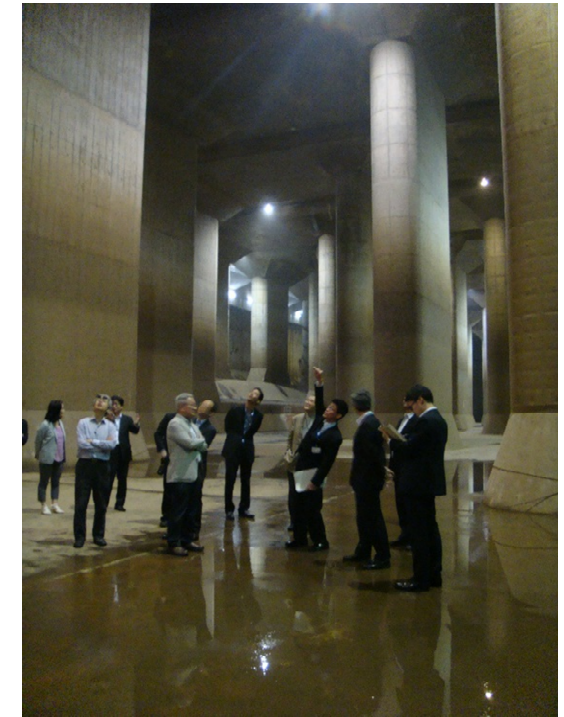


ストック効果の発現 (安全・安心)

首都圏外郭放水路

- ・ 中川・綾瀬川流域の洪水による浸水戸数を大幅に減少させた実績 (注) を持つ治水事業の中核施設を視察。

(注) 平成27年9月(台風18号等)時においては、昭和61年8月洪水と比較して、約1.1倍の雨量だったにもかかわらず、流域市町村における浸水戸数は約7割減少した(16,874戸→4,840戸※水害統計に基づく)。



自治体首長・企業経営者との意見交換

意見交換会

〈自治体首長・企業経営者の声〉

- ・ 市は、部分通水(平成14年)時から首都圏外郭放水路周辺を産業指定区域に指定。企業を積極的に誘致した結果、28企業が新規進出。 [春日部市長]
- ・ 安全・安心の確保は、企業が立地を決める際の大きな要因の1つだ。首都圏外郭放水路があることで、倉庫(商品)の浸水被害が少ないと考え、春日部市に進出した。 [企業経営者]



「賢く投資」・「賢く使う」

九州地方のインフラ整備事業

【小さな投資で大きな効果】

- ・福岡空港再整備
- ・博多港クルーズ船対応岸壁及びクルーズセンター

【複数事業の一体的実施】

- ・熊本駅周辺鉄道連続立体交差事業、周辺再開発事業



経済界と意見交換

意見交換会

〈熊本商工会議所の声〉

- ・住民の生活基盤はもとより、観光基盤としても、インフラ整備は重要。
- ・地震からの復旧復興は、支援物資の輸送も、経済の回復も、インフラあってこそその話だ。



視察及び自治体・首長・地元企業との意見交換

熊本地震の現場

〈視察先(意見交換)〉

熊本城(熊本市)、益城町住宅被災状況(益城町町長)、西原村仮設住宅(西原村村長)、阿蘇大橋地区・阿蘇長陽大橋・南阿蘇鉄道(熊本県、南阿蘇鉄道株式会社)



横浜港視察

ストック効果の発現（経済成長を支える基盤の強化）

【大さん橋国際旅客船ターミナル視察】

・ 関東地方整備局から、施設概要及びクルーズ振興について説明を受けた後、大さん橋屋上からの横浜港視察及び意見交換を実施。

【横浜みなと博物館】

・ 関東地方整備局から、横浜港の歴史・技術・文化を紹介する博物館の展示を基に横浜港の概要について説明を受けた後、意見交換を実施。

【南本牧ふ頭コンテナターミナル視察】

・ APMターミナルズジャパン株式会社、三菱倉庫株式会社及び関東地方整備局から、施設概要及び国際競争力強化に向けた取組について説明を受けた後、ターミナル内視察及び意見交換を実施。



ストック効果の発現（安全・安心）

鶴見川多目的遊水地視察

・ 関東地方整備局から、施設概要及び鶴見川の総合治水対策について説明を受けた後、遊水地内にある日産スタジアム下（河川水が流入しても施設が浸水しないようピロティー方式を採用）の視察及び意見交換を実施。

